

連載⑤  
内海善雄の  
(ITU前事務総局長)  
やぶ睨み  
「ネット社会」論

# 人間的な豊かさをも考えたい ネット社会の流通革命

## 開発途上国首脳の反応

ジュネーブ（二〇〇三年）とチュニス（〇五年）で開催された世界情報社会サミットは、その後、開発途上国の政策に大きな影響を与えた。しかし、当初は首脳の間がほとんどなく、参加を説得する必要があった。

「ペルーの、ある山村の村長が、その地で取れる農作物のネット・ショップを開設した。そのショップがニューヨークの住民に知れ、米国から直接注文が来るようになって、村人の所得が五倍にもなった」

「ガーナの若い女性が、インターネット・カフェのPCを使ってガーナの服を販売するネット・ショップのサイトを作った。すると世界中から注文が来るようになって、その女性は、一年もたたないうちに数十人を雇用する

引ができる。

また、宅配便の発達により配達迅速になったうえに、信用度合いの低い店からの購入には代引き制度が活用できる。

さらに重要なことは、「楽天」などのショップ開設サイトの発達によって、誰でもが簡単にネット上に開店することができるようになったことである。知恵と工夫とさえあれば容易に売り上げを伸ばせる自分の店を持つことができるのである。その結果、無数の無名のショップが価格とバラエティーを競うようになり、大型店にない希少商品も簡単にネットで購入できるようになった。

日本では、ネット・ショッピングの売り上

店のオーナーになった」

多くの首脳たちは、このような話に大いに興味を示してくれた。

インターネットとPCさえあれば、資本がなくても一夜のうちに販路を作り、世界のマーケットを相手に販売ができる。貧困にあえぐ開発途上国にとっては、これらはマジックといえるほど魅力的な話である。

実は、ビジネス・チャンスに恵まれない開発途上国だけのサクセス・ストーリーではない。先進国でも同じことが起きているのだ。

最近、ゴルフクラブのグリップを自分で交換しようと思ひ、大量買取専門店へ行ったところが、思いもかけず高額であったのでネットで調べて見たら、同じ製品が半額以下で売られている。早速、最安値の店にクレジット払いで注文した。

少し心配になって、改めて店を調べてみたら、手袋やグリップの小物だけしか扱っていない。さらに店の住所をグーグル・アースで調べてみると、画面の様子から、名古屋地区の住宅地の小さいアパートの一室であることが分かった。おそらく、場所をとらない手袋

やグリップだけに限って、自宅でネット・ショップを経営していることが想像される。まもなく、ショップから商品が問題なく配送された。

カメラや家電などの大衆一般商品でも、ネット・ショッピングは、量販店の店頭価格よりはおおむね一、二割程度、低廉であり、一度経験した者は頻りに利用するようになるようである。

## 誰でも開店が可能

かつて買ひ物は、近所の八百屋さん、電気屋さんなどで行った。やがてスーパーやコンビニ、また、近年は大型量販店が出現して、小売業界は一変した。今、静かに進んでいる、もう一つの流通革命は、このネット・ショッピングである。

ネット・ショッピングは、実店舗で購入するよりも便利で、かつ低廉である。

最近、「価格コム」をはじめ、価格比較サイトが発達し、有利な店を簡単に検索できるようにになった。さらに、その店の評判などの情報も充実してきているので、安心して取引ができる。

繁華街であり、憩いの場でもある。欧州人が日本の商店街を見ると、「一等地にありながら、なぜシャッターを下ろしているのか」と不思議に思うであろう。

方向であろうか？

見るだけでも楽しくなる美しいショーケース、少々高額でも購買意欲の湧く魅力的な商品、通り過ぎる人たちを見ながら一服し、また、友人と楽しい会話をしながらゆっくり食事ができる場所等、ショッピングには、低コストと便利さだけでは得られない大事なものがたくさんある。これらは、ネット・ショッピングの発達でますます得がたいものとなるだろう。

人間的な豊かさを売り物にした欧州の商店街の姿は、ネット時代になればなるほど、日本のシャッター通りの再生に参考となる道ではなからうか。

## 郊外も都心も活気ある欧州

一方、地方都市の商店街は、かつての面影がない。シャッター通りになったのは、自民党政権の経済政策の責任だろうか。車社会に合致した広い駐車場と、低廉な商品が品揃えされた大型店に、既存の商店街が対抗手段を打ち出せなかっただけのことではないのか。

しかし、欧州の地方都市では、郊外のショッピング・モールも隆盛を極めていますが、都心の商店街も活況である。

教会や城を中心に中世から発展してきた商店街は、かつて扱っていた日常品の取り扱いはやめ、ブティックや趣味の品の店、おしゃれなレストランなどに転業し、それぞれ特色を出して、その都市の顔となっている。そこは市民や観光客で賑わい、まさに文字通りの



内海善雄（つみ よしお）

1942年香川県高松市出身。東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省入省。98年国際電気通信連合（ITU）事務総局長就任。現在、財団法人「通信・放送コンサルティング協力」理事長。

今も昔も変わらず賑わう欧州の商店街